

# 平成30年度第1回総合戦略推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成30年8月20日（月）18時30分～20時30分
2. 場 所 市役所10階 第6会議室
3. 出席者 有識者 9名 ※内、代理出席 1名 （欠席6名）  
関係部長15名

## 4. 議事内容報告

（○帯広市 ●委員）

### 1 開会

- 新任の有識者委員・関係部長による自己紹介
- 事務局より、欠席者について報告
- 事務局より、帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略、帯広市人口ビジョン、総合戦略推進会議について説明

[総合戦略・人口ビジョン・総合戦略推進会議について]

(説明要旨)

- 人口減少時代を迎えた中で、帯広市の人口減少の克服と、「まち」「ひと」「しごと」の創生に向けて、持続可能な地域づくりを進めるため総合戦略を策定。
- 人口ビジョンは、総合戦略の取り組みを検討する基礎資料として、人口の現状を分析し、将来展望を示したもの。
- 総合戦略を住民と連携して推進していくため、本部会議の事務を補完し、地域の産業界や大学、金融機関、労働団体、住民と、戦略の検討や取り組みの進捗、評価・検証等を行う場として、総合戦略推進会議を設置。

### 2 協議題

(1) 総合戦略の進捗評価等について

[帯広市の人口動向について]

(説明要旨)

- 平成29年の帯広市の人口は167,653人となり、平成28年人口と比較すると0.26%の減少となっている。人口ビジョンでは平成32年(2020年)の展望人口を165,719人としているため、仮に、平成30年以降0.26%ずつ人口が減少していった場合、平成32年(2020年)人口は約166,300人となり、600人程度展望人口を上回ると推計される。
- 道内人口10万人以上の主要市における平成28年と平成29年の人口比較による増減率をみると、帯広市は、札幌市、江別市に次いで3番目となり、他市と比較しても人口が堅調に推移していると考えている。
- 死亡数と出生数の差である自然動態は、マイナス464人となり、減少幅はほぼ前年並

みだが、過去数年で見ると拡大傾向となっている。死亡数は4年ぶりに減少に転じ、出生数は引き続き減少傾向で推移している。

- 転入数と転出数の差である社会動態は、3年ぶりに転出が転入を上回る転出超過となっている。将来展望では、毎年80人程度の転入超過を見込んでいるため、それを下回る結果となった。
- 社会動態を都市間の移動で見ると、札幌市と東京圏で前年に比べ転出超過の幅が拡大している。十勝管内町村からの転入超過が前年に比べて100人程度増加しているほか、旭川や北見、釧路などの周辺市からも転入超過となっている状況である。
- 全体を通し、総人口としては他都市に比べ、堅調に推移しているが、自然動態・社会動態の推移をみると、楽観視することはできず、総合戦略に掲げた取り組みのさらなる推進が必要と考えているところ。

(主な質問・意見)

- 特になし。

[平成29年度の総合戦略の進捗評価等について]

(説明要旨)

- 総合戦略は5年計画となっており、数値の進捗については、毎年20%ずつ進捗すると5年で100%となることから、3年目である平成29年度の数値目標の進捗目安を60%とし、取り組みの成果や課題、人口動向などを総合的に勘案して、「順調に進捗」または「さらなる進捗が必要」の2段階で評価を行っている。

(説明要旨)

～基本目標1 新たな「しごと」を創り出す～

～基本目標2 十勝・帯広への「ひと」の流れをつくる～

- 基本目標1では、5つの数値目標のうち、3項目で目安の進捗となる60%を上回った。基本目標2では、3つの数値目標のうち、すべての項目で進捗60%を上回った。数値目標については、いずれも順調に進捗していると評価したところ。
- 将来的な起業家の輩出を目指した人材育成事業「ステップ・アップ・ネクスト」を平成28年度に引き続き実施し、2年間で38名の参加があった。学生・若手社会人向けの全6回に渡る課題解決プログラムで、メンターと呼ばれる講師やサポーターとの個別相談などにより、身近な生活の中にある課題の解決を通じて、参加者が課題を解決する力を養うことを主目的としている。
- 「とかち・イノベーション・プログラム」では3年で33件の構想を生み出し、うち10件の事業化へとつなげてきたところ。平成29年度は、イノベーション・プログラムなどで生まれた構想を着実に事業化へと結び付けるため、とかち財団を中心にして、域外の事業者のアドバイスもいただきながら、構想のフォローアップを図るとかち・コネクションに取り組んできた。起業家の育成、事業構想づくり、事業化への磨き上げまでの仕事づくりを総合的にコーディネートする仕組みを十勝・イノベーション・エコシステムと称し、進めているところ。
- 帝国データバンク帯広支店のデータによると、近年の帯広市内の新設会社数は平成

27年以降増加傾向となっている。

- 新たな仕事や人の流れをつくり、企業の投資を呼び込むためには、工業団地の確保が欠かせないため、新たな工業団地基本計画の策定を進めた。候補地は西19条北2丁目から3丁目で、大きさは約28ha。平成31年度から分譲を開始し、平成32年度(2020年度)中に造成工事を完了する予定である。
- 国の交付金を活用し、継続してアウトドアのブランド化を推進した。ポロシリキャンプ場の利用者数は2年で倍増(H27→H29)しているほか、オフシーズンで集客が見込めなかった厳冬期においても、スノーグランピングなどのコンテンツ開発を進めているところ。
- 十勝の美しい景観や雄大な自然空間を活かした新たな観光コンテンツとして、サイクルツーリズムの充実に向けた取り組みを進めた。3種類のサイクルフラッグを作成し、管内各所に配置したほか、スタンドのない自転車を立てかけておくためのサイクルハンガーを、幸福駅等市内の観光名所に設置するなど、利用者の利便性向上を図った。
- 国の交付金を活用し、観光拠点施設を2か所整備した。一つ目は帯広駅前にある「バスターミナルおびくる」で、待合室の拡張などを行ったほか、アウトドア用品やレンタルバイクなどの陳列スペースを設け、訪れる方に十勝・帯広観光の魅力を発信している。二つ目は帯広畜産物加工研修センターの改修で、製造した製品を近隣のポロシリキャンプ場利用客に提供し、地元製品の消費拡大につなげることを目的に、製造機能の拡充を図った。
- 振興局別に宿泊割合をみると、十勝地域は、15.9%となっており、北海道平均である18.0%を下回っていることから、通過型観光と呼ばれる宿泊を伴わない観光が他地域に比べ多いのではないかと推察する。  
※宿泊割合：各振興局が発表している宿泊客数を観光入込客数で除した数値。この地を訪れた方のうち、どのくらいの方が宿泊を伴う滞在になっているかをみる目安として計算したもの。
- 基本目標1および2は、数値目標の達成率が堅調であったことに加え、国の交付金も活用し、将来に向けた仕事づくりや、観光面などを中心に人を呼び込むための基盤づくりが図られていることから、目標達成に向け順調に進捗していると評価している。

#### (主な質問・意見)

- 市の総合戦略で、数値目標に「『十勝管内』農畜産物の輸出額」としている理由は。
- 管内の農畜産物が、と畜場など市内に立地する企業に集まるため、「十勝管内～」としたほうがより正確な数値がとれると考えている。
- 製造品出荷額は帯広市のものか。特に平成29年度が伸長していることに特殊な事情などあるか。
- 対象は帯広市。伸長に対して個別の企業の状況などはわからないが、とりわけ、食料品製造業や電子部品・デバイス・電子回路製造業、生産用機械器具製造業などの伸びが要因の一つとなっている。
- 創業・起業件数は何をカウントしているのか。
- 帯広市の制度融資やとかち・イノベーション・プログラムなどの支援制度を活用して創業・起業に至ったもの。

- 創業支援ネットワークの数字とは異なるのか。
- 創業支援ネットワークの数字は町村分も含まれているため、そのうちの帯広市分だけを見ている。
- 数値目標中、移住者の定義は。
- 帯広市の移住フェア参加者や直接相談に来られた方で帯広市に移住が決まった人を対象としている。転勤などによる住民登録を除くためのカウント方法である。KPIの「UIJターン者の地元企業就職者数」などの数字が含まれる。
- 創業・起業件数が伸び悩んだ要因として、「挑戦する事業者等の裾野の広がりや事業創発にチャレンジしやすい環境作りが十分ではないこと」としているが、具体的にチャレンジしやすい環境とはどのような環境を指しているか。
- とかち・イノベーション・プログラムなどの取り組みに代表されるように、域外の事業者を招いて、地域の事業者やこれから事業を始めようとする人に刺激を与えられるような場をもつことを示しているもの。
- 起業については徐々にマインドが形成されている印象。ただし、規模の小さな物が大半のため、圧倒的な成功事例が欲しいところ。そうした事例がでてくると、周りへの波及効果も大きいと考える。また、観光については、言語、慣例など受け入れ体制の整備が遅れているように思う。インバウンドを含め観光客が増えてきていることを鑑みると急ぐべきである。テーブルチャージなど、日本の文化を外国人に理解してもらえようような取り組みが必要と考える。
- ご指摘のとおり、起業についてはまだ飛び抜けた事例がないため、地域でそうした事例を育てていかなければならないと認識しており、関係者一丸となって引き続き取り組んでまいりたい。観光については、おもてなしの面で一流の観光地と比べ劣っているところが多い。また、宿泊施設に目を向けると、近年新設が続いているが、ビジネス需要への対応が主であり、インバウンドへの対応は遅れていると認識している。
- おもてなしの話は間違っていないと思うが、日本固有の文化をいかに相手に理解してもらおうかという視点も重要。他地域ではそうした取り組みも行われている。
- 仕事づくりに取り組む一方で、労働力不足の問題にも直面していると思う。この二つはミスマッチのように思われるが、労働力不足に対してどのように取り組んでいるか。また、自然減はどの地域でもなかなか止めようがない状況にある中、たとえば、女性が働ける職の確保など、若い女性をこの地に呼び込むためにどのような取り組みを行っているか。
- 土木建設などをはじめ、各業界で人材が不足しているのは認識している。労働関係機関と連携して、セミナーの開催などにより人材定着の取り組みを進めているところ。また、シルバー人材センターと連携して、各企業を訪問し、高齢者の職の切り出しに取り組んでいる。そのほか、事業者が求める人材と欲しい人材のギャップがあり、有効求人倍率が上昇しているのに、雇用までつながっていない問題が生じている。ジョブジョブ十勝とともにこのミスマッチについても対策を講じているところ。
- 若い男性の人口移動では、大学に入学するタイミングで転出増となり、卒業するタイミングで転入増となる特徴がある。一方、若い女性の人口移動では転出したきり、戻ってこないという特徴があった。ただし、近年、この現象は改善している傾向も見られる。正職員で事務職の雇用が増えることがポイントになると考えている。その他、若者向けの取り組みとしては、UIJターンに係る取り組みが好調である。また、帯広畜産大学との連携事業では、学生によるまちづくりへの参加や、地元企業との共同研究を支援し、将来的な地元定着を図っているところ。

- 運輸業界でも人材不足は深刻。最近では募集をかけても応募すらない状況。業界ではこれまで高校生の新卒は採用していなかったが、これからはこうした人材を採用し企業自ら育てていく必要があると考えている。加えて、最近では大型に限らず2トン車など中型車のドライバー需要も増えているため、女性ドライバーの登場にも期待したい。

(説明要旨)

～基本目標3 十勝・帯広への「ひと」の流れをつくる～

～基本目標4 結婚・出産・子育ての希望をかなえる～

- 基本目標3では、2つの数値目標のうち、いずれも目安の進捗である60%を下回った。基本目標4では、3つの数値目標のうち、1項目のみ進捗60%を上回った。
- 子育て世帯が就労しやすい環境づくりを進めるため、子育て応援事業所の登録を促進している。登録事業所は、育児休業取得者1人につき15万円が支給されるほか、優遇金利による融資制度が受けられる。帯広市事業所雇用実態調査では、育児休業制度導入事業所は年々増加傾向を示すなど、制度の周知が徐々に浸透してきていると考えている。
- 産前産後サポート事業は、ママと赤ちゃんの相談会という名称で、妊娠中の方、1歳までの赤ちゃんとその保護者を対象に、テーマごとに講座を開設したところ、350名の参加があった。産後ケア事業は、心身の不調や育児不安がある退院直後のお母さんと赤ちゃんが対象で、医療機関において心身のケアや育児のサポートを行うもので、25件の利用実績があった。出産・育児に係る不安感の軽減を通して、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいるところ。
- 特定不妊治療費助成は、着実に申請件数が積み重ねられており、市民のニーズが非常に高いことが窺える。新たに不妊症治療費の助成も開始するなど、出産の希望を後押しする制度の充実を進めているところ。その他、子育て世帯向けの地域有料賃貸住宅の整備を行うなど、子育て世帯への経済的支援に取り組んだ。
- こども学校応援地域基金プロジェクトを通し、子供たちを地域社会総ぐるみで応援する仕組みの構築を進めた。こども学校応援地域基金を基に、前年に比べ2団体増の6団体に活動資金を交付し、学校を支える地域ボランティアの取り組みを応援している。活動がさらに普及するよう、ボランティア同士の交流の場である「こども応援！みらいカフェ」の場で取組報告なども実施した。
- 防災出前講座に122回取り組んだ。普段子どもたちが見ることのない、学校設置の自主防災倉庫の中身の確認や、ゲームをしながら防災の知識を得られるカードゲームなどを実施した。関連KPIも順調な進捗が見られるなど、防災意識の向上に向けた取り組みが進んでいる。
- 帯広市中心部の西2条南7丁目に、平成28年12月高齢者いきいきふれあい館「まちなか」を開設した。介護予防運動や趣味活動を通じて、高齢者の健康増進といきがいづくりを支援している。昨年は延べ人数で約1万人の利用があり、中心市街地の活性化にも寄与したと考えている。アンケート調査では、利用者の約7割がバスを利用しており、高齢者のバス乗車料を無料とするおでかけサポートバス事業との連動効果も現れてきていると推察する。
- 将来的な空家の予備軍と考えられる高齢者のみ世帯が暮らす持ち家住宅は、平成27年の国勢調査の結果、10年前と比べ約1.5倍に増加した。平成29年度は、ワンストップ

プ窓口の設置や、空家の改修・解体に係る補助を開始し、空家の適正管理の促進に向けた取り組みを進めてきたところ。

- 基本目標3および4は、子育て世帯への切れ目ない支援や、安全安心で快適に暮らせるまちづくりに向けた取り組みが着実に進んでいる一方、数値目標の達成率が低調であったほか、出生数の改善に至っていないなど、取り組みの効果が現れるまでにはまだ時間を要することから、目標達成に向けては、さらなる進捗が必要と評価している。

(主な質問・意見)

- 数値目標にある「この地域で今後も子育てをしていきたいと思う人の割合」の分母と、集計するタイミングについて伺う。
- 5ヶ月検診、1歳6ヶ月検診、3歳検診のタイミングで、事前に送付したアンケート結果を回収し、集計したもの。5ヶ月検診よりも、1歳6ヶ月検診、1歳6ヶ月検診よりも3歳検診で評価が高かった傾向にあった。
- 子育て応援事業所における育児休業の取得率はいかがか。もしくは奨励金の支給対象企業数について。
- 子育て応援事業所に登録している企業の育児休業取得率は集計していない。奨励金対象者数の累積では、平成29年度で150人に交付している状況。
- 小さいお子さんがいる世帯に伺うと、地域の人の支えが大きいとのことであった。そのあたりの行政の支援状況はいかがか。
- ファミリーサポートセンター事業として、子育てを手伝って欲しい人と、子育てを手伝いたい人のマッチングを、若干の謝礼を利用者が支払う中で、行っている。
- 謝礼が本当に必要なのか。これからは、そうした意識が当然のように育まれてくることに期待したい。
- 「まちなか」に参加しているが、今ひとつ使い方が分からない時がある。一度利用者の集いなどもあったが、集まる意味も分からないことがあった。まとめ役である運営側の問題かと思うが、もう少し工夫することができるのではないかと感じている。
- 運営委員会を開催している趣旨としては、皆さんが普段「まちなか」を利用する中で感じている課題などを把握するものと聞いている。しかしながら、運営委員会、コーディネーターおよび行政の、考えや目的が十分に利用者に伝わっていなかったように感じたところ。今後、皆さんの意見を取り入れながら、関係者とも連携して、利用しやすい環境づくりを進めていきたい。
- 防災の取り組みは大事。特に子どものうちから防災への意識を植え付けるのはとても大切なこと。子どもへの呼びかけに注力してもらいたい。また、一般に公助に注目されることが多いが、むしろ共助や自助にウエートを置くことが必要と考えている。
- 親子防災講座を44回実施している。ご指摘のとおり、未来ある子どもたちが自分たちの将来の防災をどのように図っていくかを目的として始めたもの。こうした取り組みはぜひ継続してまいりたい。
- 昨年度、認知症サポーター講座を受講したが、その後、そこで得た知識を発揮する場になかなか巡り会えない。どこに行ったらよいか、などの情報がほしい。
- たとえば、現在、市内に12~13か所認知症カフェがあるため、このような場にお越しいただき、お手伝いいただければ大変ありがたい。こうした情報を定期的にお伝えす

るため、サポーター講座受講後のアンケートでも差し支えない範囲で住所を伺っている。引き続き、皆さんの活躍の場について、情報発信に取り組んでまいりたい。

- 補助制度上、空家を利用して民泊に取り組むことは可能なのか。
- 空家を解消するための補助金の整備をしているが、民泊と連動したものにはなっていない。
- 市内に民泊の認定者は数件いるが、空家を利用した事例は把握していない。市内の宿泊施設はハイシーズンでいっぱいになっていることも多く、インバウンドの増加に対応していくためには、今後民泊需要が大きくなっていくと考える。その際、空家をリノベーションするという取り組みも有効とは思いますが、現状これを組み合わせた支援策は持ち合わせていない状況である。
- 子供の減少は、地域から元気がなくなることにつながるため、自然増に係る取組は重要だと思う。特定不妊治療申請件数は増加しているようだが、このうちの程度が受胎しているのか。
- 平成 29 年度だけでみると、述べ申請件数 140 件、86 名の申請に対し、43 名が受胎に至っている状況である。
- 晩婚化など、子どもを授かりにくい要因が多数ある中で、43 名が受胎に至ったという事は素晴らしい成果であると考えます。ぜひ周知を強化して、継続してもらいたい。
- 最近、逮捕した容疑者が脱走したというニュースが相次いだ。脱走犯が空家に逃げ込むということもあると聞く。空家対策の中で、こうした犯罪に利用されないよう、警察と連携して、怪しい空家の情報を集めておくことも必要と考える。

#### (まとめ)

- 今後、8 月 24 日の市議会において、本日の意見も含め、進捗評価などの報告を行い、議論をいただく予定である。

#### 3 その他

- 事務局より今後の予定について説明を行った。

以上